

アートプロジェクト

未定

市民参加のかたち：展示鑑賞

広告とアートの境界を問い直す試みとして、消防署などの壁面をキャンバスにした広告的なアートプロジェクトである。アイデアの出発点は、公共空間における「広告」と「警告」の関係性に着目することにある。特に「火の用心」という言葉を軸に、視覚的なインパクトを持つ表現を用いることで、単なる注意喚起にとどまらず、現代社会における情報の拡散や炎上文化をも照射する。

象徴的な存在として、俳優の写真を活用することを検討。モデルとなる俳優の視点を通じて「火の用心」というメッセージを再解釈することを試みる。しかし、肖像使用の許可が得られるかは不確定要素であり、そのプロセス自体も本作の一部と捉えられる。

社会の中で注意喚起と情報拡散がどのように作用し合うのか、また、公共広告の在り方そのものをアートとして再考する実験的なプロジェクトである。

箭内 道彦

1964年福島県郡山市生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業後、株式会社博報堂を経て2003年に独立し、風とロック有限会社を設立、現在に至る。タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」、リクルート「ゼクシィ」、サントリー「ほろよい」、東京メトロなど既存の枠に捉われない数々の話題の広告キャンペーンを長く手掛ける。

2008年から3年間MCを務めたNHK「トップランナー」を始め、NHK Eテレ「福島をずっと見ているTV」、TOKYO FM/JFN「風とロック」、ラジオ福島「風とロック CARAVAN福島」等、各番組のレギュラーパーソナリティとしても活動。創刊100号を数えたフリーペーパー「月刊 風とロック」の発行人・編集長でもある。東京藝術大学教授、福島県クリエイティブディレクター、渋谷のラジオ名誉局長、ロックバンド猪苗代湖ズ ギタリスト、風とロック芋煮会実行委員長、LIVE福島 風とロックSUPER野馬追（2011年）実行委員長。企画、制作、演出、撮影、出演、執筆、教鞭、作詞、作曲、MC、パーソナリティ、イベントの実行委員長、商品開発、など、領域を自在に超え、従来の概念を解体しながら、そのすべてを「広告」として、クリエイティブディレクション、ブランディング戦略を手掛ける。